

# 貝塚市新庁舎整備事業 市民ワークショップ

## ニュースレター vol.1



貝塚市の市役所本館は、昭和40年に建設されてから53年になります。建物や設備の老朽化が進み、耐震強度についても防災拠点施設として必要な強度を満たしていません。また、市民福祉センターや教育庁舎等についても同様に老朽化が進んでいます。

そこで、市役所の庁舎が防災拠点として必要な機能を担い、また、市民の利便性を向上させるため、現在「新庁舎整備事業」に取り組んでいます。

本事業において、新しい庁舎の考え方の基準となる「庁舎計画」を策定するにあたり、公募(3名)・市内各種団体の推薦(12名)で選ばれた15名の市民ワークショップ委員の皆様から、利用者の立場で新庁舎に求められる機能等について意見を出し合っていただく「市民ワークショップ」を開催します。

全  
3  
回

**第1回  
市民ワークショップ**  
平成30年7月21日(土)  
テーマ  
「2060年の貝塚市での暮らしを考える」

**第2回  
市民ワークショップ**  
平成30年8月25日(土)  
テーマ  
「市民と貝塚市役所の関係を考える」

**第3回  
市民ワークショップ**  
平成30年9月22日(土)  
テーマ  
「貝塚市役所を考える」

市民ワークショップでは「現在世代の立場」、「将来世代の立場」それぞれの目線で、社会のために取り組んでおくべき施策を考える「フューチャーデザイン」という考え方を基本に、「過去、現在、そして将来における貝塚市での暮らし」「考えた貝塚市での暮らしから市民と市役所の関係」「市民と市役所の関係から新庁舎のあり方」について検討します。

いただいたご意見は、これからの「庁舎計画」策定にあたっての参考とさせていただきます。



市民ワークショップ委員 集合写真

## 第1回市民ワークショップを開催しました！

7月21日（土曜日）に貝塚市新庁舎整備事業 第1回市民ワークショップを開催しました。はじめに、委員一人ひとりに藤原市長から委嘱状が手渡されました。

その後、3つのグループに分かれ、「テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？」「テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える」について話し合いました。

### ワークショップ テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？

「テーマ1：私たちにとって貝塚市とはなんだろう？」では、3つのグループに分かれ、はじめに、自己紹介を兼ねて、これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」を話していただきました。

#### 私たちにとって貝塚市とはなんだろう？

～これからも引き継いでいきたい貝塚市の「こと」「もの」「できごと」「思い出」～

A・B・Cグループで挙げた主なキーワードを下記にまとめます

\*紙面の都合上、いただいたご意見の一部を掲載しています。

子育て、福祉、活動等  
に関するもの

- ・子育てしやすいまち
- ・子育てサークル
- ・社会教育
- ・市独自の福祉の取り組み
- ・ボランティア
- ・多様な市民のまち
- ・市民活動が活発
- ・市民の必要なことに取り  
組むまち
- ・人柄のよいまち
- ・野球場

土地、自然等に関する  
もの

- ・災害に強いまち
- ・地盤がよい
- ・適度な田舎
- ・細長いまち
- ・海側と山側
- ・二色の浜
- ・アユが泳いでいる川
- ・ハクセンシオマネキ
- ・ブナの原生林
- ・里山再生

歴史、文化、交通等  
に関するもの

- ・水間観音
- ・願泉寺
- ・孝恩寺（釘無堂）
- ・重要文化財
- ・だんじり
- ・太鼓台
- ・夏祭り、秋祭り
- ・水間鉄道
- ・福祉タクシー
- ・まちなかアートミュー  
ジウム 等

## ワークショップ テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える

次に、市民ワークショップにおいて、意見交換を促進し、会を進行する、ファシリテーターの若本 和仁准教授から、「2060年の社会状況等」について、説明がありました。

### ファシリテーター 若本 和仁准教授

(大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻) からの情報提供

#### 「2060年の社会状況等」

2060年の社会状況等を悲観的に予想した場合（シリアスストーリー）と楽観的に予想した場合（ドリームストーリー）の2つの未来予想について、生活像、環境、インフラ、教育等のテーマごとに紹介しました。



【プロフィール】

専門分野は、建築計画・設計、環境デザイン、設計プロセス等。庁舎設計プロポーザルやPFI事業の選定審査会委員等、選定委員会やワークショップにおける実績多数。

「テーマ2：2060年の貝塚市での暮らしを考える」では、今から先の未来、2060年の貝塚市での暮らし、2060年の貝塚市に求められるもの、2060年におけるまちづくりの関わり方について、「フューチャーデザイン」といった考え方を基本にして話し合ってもらい、3つのグループから、主な意見を発表していただきました。

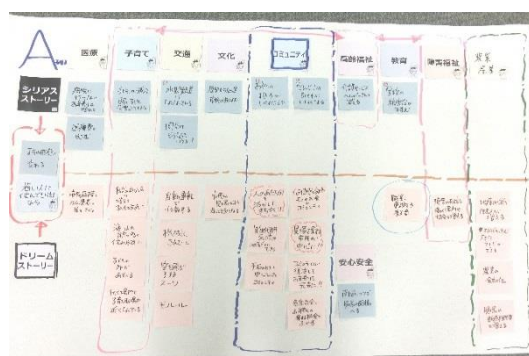
### 2060年の貝塚市での暮らし予想

#### ～シリアスストーリーとドリームストーリーの2つの側面から考えました～

2060年の貝塚市での暮らしを考え、「シリアスストーリー」と「ドリームストーリー」の2つの側面から、子育て、教育、高齢福祉、障害福祉、医療、環境、コミュニティ、文化、安心、安全、交通等について話し合いました。 \*紙面の都合上、いただいたご意見の一部を掲載しています。

### A グループ

### 主な意見



#### シリアスストーリー

##### 【医療】

- ・病院に行けないお年寄りが増える
- ・医療費がかさむ

##### 【高齢福祉】

- ・介護サービスを行うヘルパーが減る

##### 【子育て】

- ・子どもが減る

##### 【教育】

- ・学校の統廃合が進む

##### 【コミュニティ】

- ・お祭りの担い手がいなくなる 等

#### ドリームストーリー

##### 【障害福祉】

- ・障害のある方も働く場所や機会が増える

##### 【子育て】

- ・自然の遊び場が増えて子どもが元気になる
- ・働く場所と子育てする場所が近くなっている

##### 【交通】

- ・車が自動運転になっている

##### 【コミュニティ】

- ・地域コミュニティが復活し、お年寄りが元気に生活している

##### 【農林水産業】

- ・農業が法人化している 等



## B グループ

## 主な意見



### シリアスストーリー

#### 【子育て】

- ・三人兄弟が多かったのが、一人っ子が多くなっている

#### 【コミュニティ】

- ・地域コミュニティが希薄化し、回覧板がまわらなくなっている

#### 【環境】

- ・川や海の水がきれいになっているが、きれいになりすぎること生き物が減っている

等

### ドリームストーリー

#### 【医療】

- ・感染症は予防注射で回避している

#### 【障害福祉・高齢福祉】

- ・発達障害の研究が進んでいる

- ・それぞれに合った働き方ができるようになっている

- ・補助ロボットが普及している

#### 【子育て】

- ・貝塚が子育て世代に選ばれるまちとなっている

#### 【環境】

- ・海がきれいになっている

等

## C グループ

## 主な意見



### シリアスストーリー

#### 【子育て・教育】

- ・少子化により、子ども会がなくなっている
- ・子どもの遊び場がなくなり、コミュニケーション能力が下がる

#### 【コミュニティ】

- ・祭りの担い手がいなくなり、他の市町村と協力して行っている

- ・必要のない組織が消滅していく

#### 【文化】

- ・文化財を維持するのが、難しくなっている

等

### ドリームストーリー

#### 【交通】

- ・水間鉄道は変わらず走っている

#### 【高齢福祉】

- ・老人クラブは賑やかに活動している

#### 【障害福祉】

- ・誰もが参画する社会になっている

#### 【コミュニティ】

- ・お年寄り子どもをつなぐ仕組みができている

- ・国際交流の会員は増えている

#### 【安心安全】

- ・海水を真水に変える技術ができている

等

発行日：平成30年8月7日

発行者：貝塚市 総務市民部 総務課

お問い合わせ：【電話】072-433-7073 【ファックス】072-433-7511（代表）

